



Docket No. 1232-5222

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): Takashi KAWAI

Group Art Unit: TBA

Serial No.: 10/730,825

Examiner: TBA

Filed: December 8, 2003

For: IMAGE-TAKING APPARATUS AND MONITORING SYSTEM

CERTIFICATE OF MAILING (37 C.F.R. §1.8(a))

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

I hereby certify that the attached:

1. Claim to Convention Priority w/ document
2. Certificate of Mailing
3. Return postcard receipt

along with any paper(s) referred to as being attached or enclosed and this Certificate of Mailing are being deposited with the United States Postal Service on date shown below with sufficient postage as first-class mail in an envelope addressed to the: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.

Respectfully submitted,
MORGAN & FINNEGAN, L.L.P.

Dated: March 5, 2004

By:


Helen Tiger

Correspondence Address:

MORGAN & FINNEGAN, L.L.P.
345 Park Avenue
New York, NY 10154-0053
(212) 758-4800 Telephone
(212) 751-6849 Facsimile



CUSTOMER NO. 27123

Docket No. 1232-5222

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant(s): Takashi KAWAI

Group Art Unit: TBA

Serial No.: 10/730,825

Examiner: TBA

Filed: December 8, 2003

For: IMAGE-TAKING APPARATUS AND MONITORING SYSTEM

CLAIM TO CONVENTION PRIORITY

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In the matter of the above-identified application and under the provisions of 35 U.S.C. §119 and 37 C.F.R. §1.55, applicant(s) claim(s) the benefit of the following prior application(s):

Application(s) filed in: Japan
In the name of: Canon Kabushiki Kaisha
Serial No(s): 2002-366357
Filing Date(s): December 18, 2002

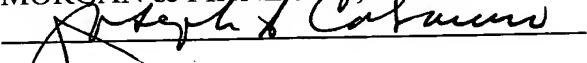
Pursuant to the Claim to Priority, applicant(s) submit(s) a duly certified copy of said foreign application.

A duly certified copy of said foreign application is in the file of application Serial No. _____, filed _____.

Dated: March 4, 2004

By:

Respectfully submitted,
MORGAN & FINNEGAN, L.L.P.


Joseph A. Calvaruso
Registration No. 28,287

Correspondence Address:
MORGAN & FINNEGAN, L.L.P.
345 Park Avenue
New York, NY 10154-0053
(212) 758-4800 Telephone
(212) 751-6849 Facsimile

CFV00124

US

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日 2002年12月18日
Date of Application:

出願番号 特願2002-366357
Application Number:

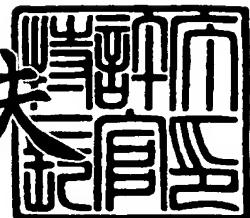
[ST. 10/C] : [JP2002-366357]

出願人 キヤノン株式会社
Applicant(s):

2004年 1月14日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3110936

【書類名】 特許願

【整理番号】 225266

【提出日】 平成14年12月18日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G03B 19/00

【発明の名称】 撮像装置

【請求項の数】 1

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会
社内

【氏名】 川井 隆

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

【識別番号】 100067541

【弁理士】

【氏名又は名称】 岸田 正行

【選任した代理人】

【識別番号】 100104628

【弁理士】

【氏名又は名称】 水本 敦也

【選任した代理人】

【識別番号】 100108361

【弁理士】

【氏名又は名称】 小花 弘路

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 044716

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 撮像装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 結像作用を有する光学素子と、
前記光学素子により形成された被写体像を撮像する撮像素子と、
前記撮像素子により撮像された画像の情報を送信する送信ユニットと、
前記光学素子および前記撮像素子を少なくとも保持し、使用者に装着可能な保
持部材とを有することを特徴とする撮像装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、撮像素子を使用して画像情報を取得する技術に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

現在、迷子となった子供や徘徊する痴呆性老人、さらに視覚障害者などの救護サービスとして、G P S (Global Positioning System) を利用した位置探索サービスが行われている。

【0003】

これは、子供や老人等の被救護者にG P S端末（専用端末やG P S機能付き携帯電話など）を携帯させ、G P S衛星の位置やそのときの時刻をもとに、被救護者の現在位置を特定し、救援に向かうサービスである。

【0004】

但し、G P S等を利用して位置情報を得るだけでは、被救護者を取り巻く状況を知り得ることはできない。すなわち、被救護者が緊急の救助を要する状況にあるのか否かや発見し易い場所にいるのか否かは、地図上の位置情報からでは判断できないという問題がある。

【0005】

そこで下記の特許文献1には、前述したG P S等を利用して位置情報を得るだけの救護システムの不都合を解消するために、ビデオカメラなどの撮像装置とP

H S 端末を利用した、特に視覚障害者の歩行支援に適したシステムが提案されている。この特許文献1では、G P Sによる現在位置の測位および支援センター内オペレータによる歩行誘導支援システムの他に、ビデオカメラなどの撮像装置を視覚障害者に携帯させ、撮影映像を支援センターに伝送し、支援センターに設置された画像監視モニタによってオペレータと音声とによって歩行誘導を行う支援システムも提案されている。

【0006】

特許文献1の実施形態として、ビデオカメラとP H S端末とが一体型に構成されたビデオカメラ付きP H S端末を用いる形態が提案されており、使用者（視覚障害者）はこの端末を前後左右に動かすことによって広範囲の撮影を行う。また、別の実施形態として、ビデオカメラとP H S端末とが別々に構成され、ビデオカメラをP H S端末にケーブルで接続し、使用者はビデオカメラを首からかけて撮像を行う形態が提案されている。

【0007】

【特許文献1】

特開2001-128124号公報

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記特許文献1に記載の実施形態では、ビデオカメラ付きP H S端末を前後左右に動かすことによってはじめて広範囲の撮影を行うことができるものであるので、迷子の子供（特に、幼児）や徘徊している老人が使用するには適さない。

【0009】

また、ビデオカメラとP H S端末とをケーブルで接続してビデオカメラを首からかけて使用する実施形態では、装着時のケーブルの取り回しが面倒である。また、特に幼児にとっては首からかけたビデオカメラやケーブルが身体の動きの邪魔となり、ビデオカメラ等を身体から取り外してしまったりケーブルを引き抜いてしまったりしてシステムの正常な運用ができなくなるおそれがある。

【0010】

さらに、視覚障害者が使用するにしても、迷子の子供や徘徊している老人が使用するにしても、上記特許文献1にて提案されているシステムを有効に機能させるためには、撮像装置として、人間の両眼を合わせた視野範囲（一般に垂直方向で60度、水平方向で少なくとも120～160度）に相当する広い撮影画角を持つ、いわゆる超広角（魚眼）レンズを装備する必要がある。

【0011】

しかしながら、本願図10に示すように、このような超広角レンズ1000は、8枚ものレンズから構成されており、非常に重く、レンズ長もかなり長い。このため、上記提案のシステムは、実際の使用には適さないものとなる可能性が高い。

【0012】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、本発明の撮像装置は、結像作用を有する光学素子と、この光学素子により形成された被写体像を撮像する撮像素子と、撮像素子により撮像された画像の情報を送信する送信ユニットと、上記光学素子および撮像素子を少なくとも保持し、使用者に装着可能な保持部材とを有する。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、上記課題を解決するための本発明の概要を、実施形態とともに説明する。

【0014】

（実施形態1）

図1には、本発明の実施形態1である遠隔モニタリングシステムの構成を表すブロック図である。

【0015】

本実施形態の遠隔モニタリングシステムは、複眼光学ユニットを用いて広画角で撮像する複眼撮像ユニット101を備えた撮像装置100を用いる。

【0016】

複眼撮像ユニット101は、図示しない被写体からの光束を結像する作用をそ

それぞれ有する複数のレンズがマトリクス状に並列配列された複眼光学ユニット104と、この複眼光学ユニット104の各レンズによって結像された被写体像を光電変換する光電変換素子を含む撮像素子105と、この撮像素子105から出力される電気信号からデジタル映像信号を生成する画像生成回路106と、この画像生成回路106によって生成されたデジタル映像信号を伝送するために、データ圧縮して符号化する圧縮符号化回路107とを有する。

【0017】

ここで、複眼光学ユニット104および撮像素子105について詳しく説明する。図2には、複眼光学ユニット104を被写体側（前側）から見た様子を表している。また、図3には、複眼光学ユニット104および撮像素子105を側面から見た様子を示している。

【0018】

複眼光学ユニット104は、マトリクス状に配列された複数（本実施形態では、5行5列の計25個）の単レンズ（光学素子）201と、プラスチック等で作られて遮光機能を有するとともに、上記複数のレンズ201を支持するレンズ支持部材202とから、全体として平板状に構成されている。レンズ201は単レンズである。レンズ支持部材202の前面（図3における上面）うち各レンズ201の前面に面した部分には、被写体からの光束を通すための開口部202aが形成されている。この開口部202aは絞りとして機能する。

【0019】

複眼光学ユニット104の中央に配置されたレンズ201の入射側の光軸（一点鎖線で示す）の方向は、該複眼光学ユニット104の法線方向に一致しており、中央から外側に配置されたレンズ201ほど、その入射側の光軸が大きく外側に広がるように上記中央のレンズ201の光軸に対して傾いている。

【0020】

ここで、中央のレンズ201は、入射側の光軸と射出側の光軸とが一致するようにならっており、このため、中央のレンズ201の射出側の光軸は、複眼光学ユニット104と平行に配置された撮像素子105に対して垂直になる。

【0021】

一方、中央から外側のレンズ201は、入射側の光軸に対して射出側の光軸が、撮像素子105に対してより垂直に近付く側に屈折するように形成されている。これにより、複眼光学ユニット104をコンパクトにまとめながらも、広い視野角（撮像画角）を得ることができる。

【0022】

なお、レンズ支持部材202の後面（図3における下面）うち各レンズ201を透過した光束が通過する部分には、開口部202bが形成されている。上記中央のレンズ201に対応する開口部202bは、該中央のレンズ201の後面に正対するよう形成されているが、外側のレンズ201の光軸は、これらレンズ201の射出側の光軸の傾き度合い（屈折後の傾き度合い）に応じて、各レンズ201に対して正対する位置よりも内側に位置している。

【0023】

撮像素子105は、CCDやCMOSセンサなどからなる光電変換素子301と、光電変換素子301の各画素に光を収束させるマイクロレンズ302とから構成されている。光電変換素子301上には、図1に示すように、単レンズ201と同じ数（本実施形態では25個）の光電変換領域150aが形成されており、1つの光電変換領域150aが、対応する1つのレンズ201によって結像された被写体像を光電変換するようになっている。つまり、複眼光学ユニット201の全視野の被写体像は、それぞれ1つのレンズ201と1つの光電変換領域105aとによって構成される複数の撮像系によって分割されて撮像されることになる。

【0024】

図3中に矢印で示す被写体からの光束は、レンズ支持部材202の各開口部202a, 202bおよび各レンズ201を通過して、マイクロレンズ302によって集光され、光電変換素子301における各光電変換領域150aの受光面（画素）上で結像する。それぞれのレンズ201の光軸が互いに傾きを持ち、それぞれ個別の視野の像を光電変換素子202の受光面上に結像することにより、全視野を隙間なく撮像することができる。

【0025】

ここで、複眼光学ユニット201に求められる仕様について説明する。本撮像装置は、これを携帯する者（使用者）の眼の代わりとなるものであり、特に迷子の子供や徘徊老人の搜索時、さらには視覚障害者の走行支援などにおいては、これらの携帯者を取り巻く環境の一部を詳細に観測するよりも、携帯者を取り巻く広い範囲の環境を瞬時に把握できることが重要である。少なくとも、通常、人間が両眼で認知できる視野範囲を携帯者の正面の方向にて撮像する必要がある。

【0026】

一般に、人間の両眼を合わせた視野範囲は、垂直方向で60度、水平方向で120～160度と言われていることから、少なくとも水平方向で120～160度程度の広画角で撮像できるように、複眼光学ユニット104のレンズ201の配列数と光軸の傾きが決定される。

【0027】

このような複眼光学ユニット201によって結像した被写体像は、光電変換素子301によって該被写体の反射率に応じた電気信号に変換され、画像生成回路106へと送られる。

【0028】

次に、画像生成回路106について説明する。撮像素子105から出力された電気信号は、被写体からの光束による露光量に応じたアナログ電気信号であり、このアナログ電気信号は、画像生成回路106内に設けられた、図示しないアナログ画像処理回路でゲインアンプなどによる出力信号の增幅、サンプルホールド、A/D変換器によるアナログ／デジタル変換がなされる。さらに、各単レンズ201および各光電変換領域105aを通じて互いに独立に撮像された分割視野像のディストーションなどの収差の補正を行なった後、各分割画像の合成、結合処理を行い、全体として1つの被写体映像を表すデジタル映像信号（画像情報）が生成される。

【0029】

その他、画像生成回路106には、画像の明るさを自動的に調整するA/E処理や、ホワイトバランス調整を自動で行うAWB処理や、画像の鮮鋭度を調整するデジタルフィルター処理などの画像品質を特徴付ける様々な処理を行う、デジタ

ルカメラやデジタルビデオカメラ等で一般的に設けられている回路も内蔵されている。

【0030】

こうして生成されたデジタル映像信号は、伝送のために、圧縮符号化回路107でデータ圧縮および符号化処理がなされる。映像信号の圧縮符号化方式は、現在様々な方法が存在しており、本発明では特に符号化方式について限定はしないが、画像の品質を維持しながらもなるべく高圧縮符号化を行い、低ビットレートで映像伝送できる方式を採用することがが望ましい。このような映像圧縮符号化方式には、動画像の圧縮符号化方式として、MPEG-4やH263、静止画ベースの圧縮符号化方式として、Motion JPEGやMotion JPEG2000などが国際標準として代表的な方式であり、本実施形態でも採用可能であるが、独自方式による圧縮符号化方式を用いてもよい。

【0031】

以上のように、本実施形態の撮像装置100において、撮像撮像ユニット101は、複眼光学ユニット104で広い視野（撮像領域）の被写体像を結像させ、撮像素子105でこれを撮像し、さらに得られた画像信号からデジタル映像信号を生成して、圧縮符号化する。

【0032】

次に、本発明の実施形態1のモニタリングシステムに備えられる無線通信システム102について説明する。

【0033】

通信システム102は、使用者に携帯され、複眼撮像ユニット101で圧縮符号化された映像信号を送信する送信ユニット108と、モニタ者側にて、送信されてきた映像信号を受信する受信ユニット109とで構成される。

【0034】

この通信システム102で用いる伝送方式については特に限定するものではなく、Wireless LANやIMT-2000を利用した無線通信方式など、伝送範囲に応じた伝送方式を選択することが望ましい。

【0035】

本実施形態では、送信ユニット108を人が携帯することから、省電力を特徴とするBluetoothを例にして説明する。

【0036】

Bluetoothは、無線周波数2.4GHzで周波数ホッピングスペクトラム拡散通信によって通信し、基本的にはスペクトラム拡散通信である1次変調、拡散変調、送信、受信、逆拡散、情報復調を踏襲しており、1次変調にGFSK、拡散変調に周波数ホッピング方式を採用している。

【0037】

そして、前述したように省電力を特徴とすることから、電池などの消耗も少なく、携帯機器には有効な方式である。但し、出力が小さく、電波の到達距離も短いため、本来は比較的狭い範囲でのシステム運用に適したものである。しかし、Bluetoothを用いて広い範囲でのシステム運用も可能である。この方法については後述する。

【0038】

受信ユニット109は、受信した映像信号をモニタ装置103に送る。モニタ装置103は、受信ユニット109から受け取った、圧縮符号化された映像信号を、解凍復号化回路110で、前述の圧縮符号化方式の逆変換により解凍復号化し、再び可視化可能な映像信号へと変換する。解凍復号化された映像信号は、映像表示回路109を通じてディスプレイ112に表示される。これにより、ディスプレイ112前のモニタ者は、撮像装置100の携帯者の周囲の広範囲の状況を映像として見ることができる。

【0039】

なお、モニタ装置103は、パーソナルコンピュータとCRTディスプレイなどからなる固定的な装置に限らず、携帯電話やPDA等、映像信号を受信して解凍復号化し、映像表示を行える携帯可能な装置でも構わない。

【0040】

次に、上述したモニタリングシステムの運用例について説明する。図4には、アミューズメントパーク内で子供が迷子になった状況でのシステム運用例を示している。

【0041】

図4（A）は、複眼撮像ユニット101と送信ユニット102とがバッチ形状の保持部材に実装されて、バッチ型の撮像装置100として構成され、このバッチ型の撮像装置100を衣類に装着して携帯した子供が迷子になり、混乱状態に陥っている様子を表している。

【0042】

子供の前方には、ジェットコースターがあり、複眼撮像ユニット101は、その広視野範囲の撮像機能によって、ジェットコースターの架橋および車両などを含むジェットコースターの全体を撮影している。

【0043】

複眼撮像ユニット101で撮影された子供の前方の風景を表す映像信号は、送信ユニット108によって、図4（B）に示すアミューズメントパークの迷子センター内に設置された受信ユニット109に送信され、該迷子センター内に設置されたモニタ装置103（パーソナルコンピュータ）のディスプレイに表示される。表示された画像は、迷子になった子供の親と迷子センターの所員が見ている。ディスプレイには、ジェットコースターの全体が映し出されているので、その画像が撮影できる場所に子供がいることがすぐに解る。

【0044】

ここで、映像信号の伝送方式としてBluetooth等の小出力タイプの送信ユニットを用いた場合において、広いアミューズメントパーク内でも有効にシステム運用する方法を、図5および図6を用いて説明する。

【0045】

図5（A）および図6（A），（B）には、図4（A）に示した、複眼撮像ユニット101とBluetooth等の小出力タイプの送信ユニット108とを、バッチ形状の保持部材601に保持させた様子を示している。図6（A），（B）には、バッチ形状の撮像装置の表面側および裏面側の構成を示している。

【0046】

複眼撮像ユニット101と送信ユニット108は、図6（B）に示すように保持部材601の裏面側に保持されており、保持部材601には、図6（A）に示

すように、複眼撮像ユニット101による保持部材601の表面側に面した視野範囲の撮像を可能とするための開口部602が形成されている。保持部材601の表面には、様々な図柄を印刷等することが可能であるが、本実施形態では、保持部材601の表面にキャラクターの顔の絵を描き、そのキャラクターの一方の目の位置に開口部602を形成している。

【0047】

一方、保持部材601の裏面側には、この保持部材601を衣服（上半身の衣服が好ましい）にとめるための安全ピン604と、回路基板605とが保持されている。回路基板605上には、複眼撮像ユニット101と、送信ユニット108と、チップアンテナ606と、これらの電源である電池607とが実装されている。

【0048】

衣類との接点である安全ピン604は保持部材601の上側に、重い電池607を保持部材601の下側に配置して、保持部材601を衣服にとめたときの安定性を確保している。また、複眼撮像ユニット101を含めた撮像装置の全部品を平面状に配置することで、全体の厚みが薄く、身体が振動しても安定した姿勢を保つことが可能であり、振れの少ない映像を撮像することが可能となる。

【0049】

また、図5（A）に示す115は、衣服（腰のベルト等の下半身の衣服が好ましい）に装着される中継通信ユニットである。この中継通信ユニット115は、送信ユニット108からの映像信号を受信して、Bluetooth等の小出力タイプの無線通信方式に比較して高出力のIMT-2000等の一般公衆通信網（無線通信方式）に対応した信号に変換する。そして、中継通信ユニット115は、その変換した映像信号を、図5（B）に示す、パーク内の迷子センター若しくはパーク外の警備管理会社等に送信する。パーク外からは専用回線又は一般公衆通信網を用いて迷子センターに映像信号が送られる。

【0050】

なお、上記のように比較的軽い小容量の電池607を備えた保持部材601（撮像装置100）を上半身側に装着し、比較的大容量の電池を備えた中継通

信ユニット115を腰等の下半身側に装着することにより、身体の動きに対してできるだけ負担にならないようにすることができる。また、保持部材601（通信ユニット108）と中継通信ユニット115間はケーブルで接続されないため、身体上にケーブルが這うことなく、これらを違和感なく携帯することが可能となる。

【0051】

さらに、携帯者の胸や頭に近い位置に装着される送信ユニット108（撮像装置100）を小さな出力のものとし、高出力の中継通信ユニット115を頭等から離れた腰等に装着させることにより、電波による人体への悪影響が生じるのを防止することができる。

【0052】

（実施形態2）

図7には、本発明の実施形態2である遠隔モニタリングシステムの構成を示している。なお、本実施形態において、実施形態1と共通する構成要素には実施形態1と同符号を付して説明に代える。

【0053】

本システムでは、実施形態1にて説明した撮像装置に後述する撮像制御回路701が追加され（撮像装置100'）、またモニタ装置103側に操作装置703が備えられる。また、実施形態1の通信ユニットのうち撮像装置側に受信ユニット409を、モニタ装置側に送信ユニット408が追加されている（通信システム102'）。

【0054】

撮像装置100'側の撮像制御回路701は、撮像動作に関わる制御を行う撮像動作制御回路702と、撮影された映像情報の情報量制御を行う撮像情報制御回路703とから構成されている。

【0055】

また、操作装置704は、それぞれ不図示のボタンやスティック等の操作部材の操作に応じて、撮像動作に関わる操作信号（動作操作信号）を出力する撮像動作操作回路705と撮影された映像情報の情報量操作を行うための操作信号（情

報量操作信号) を出力する撮像情報操作部 706 とから構成されている。

【0056】

本システムは通常は待機状態にあり、撮像装置 100' の複眼撮像ユニット 100 は撮像動作を行なわず、通信システム 102' のみが動作して操作装置 703 からの操作信号を待ち受ける。

【0057】

迷子が発生すると (親等からの届け出があると) 、迷子センター所員は、操作装置 704 の撮像動作操作回路 705 に設けられた操作部材を操作する。これにより、撮像動作操作回路 705 は、動作操作信号の 1 つである撮像開始信号を送信ユニット 408 を通じて撮像装置 100' 側の受信ユニット 409 に送信する。

【0058】

迷子となっている子供が携帯した撮像装置 100' の撮像制御回路 701 は、受信ユニット 409 を通じて撮像開始信号を受信すると、該信号に応じて複眼撮像ユニット 101 に撮像動作を開始させる。これにより、子供の周囲前方の映像が迷子センターのモニタ装置 103 のディスプレイに表示される。

【0059】

このように、撮像制御回路 701 および操作装置 703 によって、必要なときにのみ撮像を行うようにすれば、電池 607 の浪費を制限することができる。

【0060】

なお、撮像動作操作回路 705 に設けられた操作部材を操作することにより、撮像装置 100' に撮像停止や撮像継続等も指示することができる。

【0061】

また、迷子センター所員は、モニタ装置 103 に映し出された映像を見て分かった迷子の子供の状況に応じて、撮像情報操作回路 706 に設けられた操作部材を操作する。撮像情報操作回路 706 は、該操作部材の操作に応じて、情報量操作信号を送信ユニット 408 を通じて撮像装置 100' 側の受信ユニット 409 に送信する。これにより、撮像装置 100' から送られてくる映像の状態を調節することができる。

【0062】

具体的には、限られたデータ通信環境において、映像情報の圧縮率を上げ、画像品質は落ちるが動画像としての滑らかさを優先させる調節を行ったり、映像情報の圧縮率を下げ、動画像としての滑らかさは落ちるが画像の品質を優先させる調節を行ったりする。前者の調節は、移動している迷子の刻々と変化する位置をリアルタイムで把握する必要のある場合等に行われ、後者の調節は、迷子が1ヶ所に留まっていて、その付近の詳細な状態を把握するために高解像度の映像が見たいような場合等に行われる。

【0063】

撮像情報操作回路706からの情報量操作信号を受信した撮像装置100'側の撮像情報制御回路703は、圧縮符号化回路107を通じて映像信号の圧縮率を制御する。例えば、動画像をMPEG-4により圧縮符号化する場合、伝送環境に対応して時空間におけるスケーラビリティ機能を有しており、撮像情報制御回路703はスケーラビリティ機能を利用して最適な映像伝送を操作することが可能となる。

【0064】

また、静止画ベースの圧縮符号化方式であるJPEG方式による圧縮符号化でも、Q値と呼ばれるパラメータを制御することにより、映像情報量を制御することが可能となる。

【0065】

(実施形態3)

図8には、本発明の実施形態3である撮像装置の構成を、図9には、この撮像装置を備えた遠隔モニタリングシステムの構成を示している。本実施形態は、実施形態1にて説明した撮像装置に、マイクロフォン902およびスピーカー903を備えた音声入出力ユニット901を追加するとともに(撮像装置100")、実施形態1にて説明したモニタ装置103側にも、マイクロフォン912およびスピーカー913を備えた音声入出力ユニット910を設けたものである。なお、通信システム102'は実施形態2で説明したものと同様である。また、本実施形態において、実施形態1、2と共通する構成要素には実施形態1、2と同

符号を付して説明に代える。

【0066】

図8 (A), (B) には、図6 (A), (B) と同様に、バッチ形状に形成された撮像装置100”の表面側および裏面側の構成を示している。本実施形態では、マイクロフォン902、スピーカー903および受信ユニット409を回路基板605上に、複眼撮像ユニット101等とともに実装している。

【0067】

ここで、図8 (A) に示すように、保持部材601におけるキャラクターの目の位置（図6 (A) にて説明した複眼撮像ユニット101による撮像用の開口部602が形成された側とは異なる目の位置）には、マイクロフォン912による音声取得用の開口部612が形成されている。さらに、キャラクターの口の位置には、スピーカー903による発声用の開口部613が形成されている。

【0068】

図9において、撮像装置100”側の音声入出力ユニット901において、マイクロフォン902によって取得された音声情報は、音声用の圧縮符号化回路904によって圧縮符号化され、送信ユニット108によって映像信号と多重化され、モニタ装置103側の受信ユニット109に送信される。受信ユニット109で受信された映像信号と音声信号は、ここで分離され、音声信号は音声用の解凍復号化回路915によって解凍復号化されてスピーカー913によって拡声される。これにより、迷子センターにいる所員や親等は、迷子になっている子供の周囲の映像とともに、子供やその周囲の音声を聞くことができる。

【0069】

一方、モニタ装置103側の音声入出力ユニット911において、マイクロフォン912によって取得された音声情報は、音声用の圧縮符号化回路914によって圧縮符号化され、送信ユニット408によって、撮像装置100”側の受信ユニット409に送信される。受信ユニット409で受信された音声信号は、音声用の解凍復号化回路905によって解凍復号化されてスピーカー903によって拡声される。これにより、迷子センターにいる親等は、迷子になっている子供に対して呼びかけることができ、子供を精神的に支援することが可能となる。

【0070】

なお、音声用圧縮符号化および解凍復号化の方式については特に限定するものではないが、一般にスピーチコーデックと呼ばれる分類に属するC E L PやH V X Cなどが適している。

【0071】

(実施形態4)

以上説明した実施形態1から実施形態3のモニタリングシステムにおいて、図5（A）に示した、中継通信ユニット115にG P S機能を搭載し、携帯者の位置情報と携帯者の周囲の映像情報を併用できるようにしてもよい。

【0072】

これにより、特に一般市街などの広いエリアで迷子になった子供や徘徊している痴呆性老人などの位置情報を地図上から得ることができるとともに、該携帯者の回りの詳細な映像情報を得ることができる。

【0073】

なお、上記各実施形態では、撮像装置を、保持部材を丸形としたバッチ型（形状）に構成した場合について説明したが、保持部材の形状を四角形や星形などの様々な形状としてもよい。また、本発明において、撮像装置の形態は身体に装着できるものであればぜよく、例えばベルトのバックル型に構成したり、小型軽量であることを生かして首からかけるカード型に構成したり、ボタン形態としたりしてもよい。

【0074】

さらに、以上説明した各実施形態は、以下に示す各発明を実施した場合の一例に過ぎず、下記の各発明は上記各実施形態に様々な変更や改良が加えられて実施されるものである。

【0075】

〔発明1〕 結像作用を有する光学素子と、
前記光学素子により形成された被写体像を撮像する撮像素子と、
前記撮像素子により撮像された画像の情報を送信する送信手段と、
前記光学素子および前記撮像素子を少なくとも保持し、使用者に装着可能な保

持部材とを有することを特徴とする撮像装置。

【0076】

〔発明2〕 それぞれ結像作用を有する複数の光学素子を並列配置して構成される複眼光学ユニットと、

前記複眼光学ユニットにより形成された被写体像を撮像する撮像素子と、

前記撮像素子により撮像された画像の情報を送信する送信手段と、

前記複眼光学ユニットおよび前記撮像素子を少なくとも保持し、使用者に装着するための装着具を備えた保持部材とを有することを特徴とする発明1に記載の撮像装置。

【0077】

〔発明3〕 前記複眼光学ユニットは、水平方向において120度以上の撮影画角を形成することを特徴とする発明1又は2に記載の撮像装置。

【0078】

発明2, 3によれば、複眼光学ユニットを用いることで、小型（特に、薄型）かつ軽量でありながら、広い撮影画角で携帯者の周囲の画像をモニタすることができる。したがって、迷子の子供や徘徊している老人の搜索や視覚障害者の歩行支援等を、これらの携帯者に負担をかけることなく確実に行うことができる。

【0079】

また、使用者に装着して携帯させることで撮像装置が振動しても、広画角で撮像することにより、観察される画像の振れは小さく、観察者の疲労が少なくなる。

【0080】

〔発明4〕 前記保持部材は、バッジ状の形状を有することを特徴とする発明2又は3に記載の撮像装置。

【0081】

発明4によれば、携帯性が良く、子供等も好んで装着する撮像装置を実現することができる。

【0082】

〔発明5〕 送信されてきた制御信号を受信する受信手段と、

前記受信手段により受信した制御信号に基づいて撮像動作を制御する制御手段とを有することを特徴とする発明2に記載の撮像装置。

【0083】

〔発明6〕 送信されてきた制御信号を受信する受信手段と、前記受信手段により受信した制御情報に基づいて、前記送信手段により送信される画像情報量を制御する制御手段とを有することを特徴とする発明2に記載の撮像装置。

【0084】

発明5および6によれば、画像情報の受信側（モニタ側）からの遠隔操作によって撮像動作を制御したり画像品質を調節したりすることができる。

【0085】

〔発明7〕 発明1から発明6のいずれかに記載の撮像装置と、前記送信手段から送信された画像情報を表示するモニタ装置とを含むことを特徴とするモニタリングシステム。

【0086】

〔発明8〕 発明5又は6に記載の撮像装置と、この撮像装置の前記送信手段から送信された画像情報を表示するモニタ装置とを含み、

前記モニタ装置は、観察者による操作に応じて前記撮像装置に制御情報を送信する制御情報送信装置を有することを特徴とするモニタリングシステム。

【0087】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、撮像した被写体の画像を遠隔地等に送信することができ、迷子の子供や徘徊している老人の搜索や視覚障害者の歩行支援等を確実に行うことができる。しかも、送信手段を含む撮像装置を一体のものとして保持部材を介して使用者に装着できるため、配線ケーブルが使用者の動きの邪魔になったり使用者が配線ケーブルを外してしまう等の不都合を回避することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施形態1である撮像装置を用いた遠隔モニタリングシステムの構成を表すブロック図である。

【図2】

上記実施形態1の撮像装置を構成する複眼光学ユニットを前面側から見た図である。

【図3】

上記実施形態1の複眼光学ユニットおよび撮像素子の側面断面図である。

【図4】

上記実施形態1のモニタリングシステムの運用例を示す図である。

【図5】

上記実施形態1の撮像装置をバッチ型に構成した場合の装着例を示す図である。

【図6】

上記バッチ型撮像装置の構成を示す図である。

【図7】

本発明の実施形態2である撮像装置を用いた遠隔モニタリングシステムの構成を表すブロック図である。

【図8】

上記実施形態2のバッチ型撮像装置の構成を示す図である。

【図9】

本発明の実施形態3である撮像装置を用いた遠隔モニタリングシステムの構成を表すブロック図である。

【図10】

従来の超広角（魚眼）レンズの構成を表す断面図である。

【符号の説明】

100, 100, 100" 撮像装置

101 複眼撮像ユニット

102 通信システム

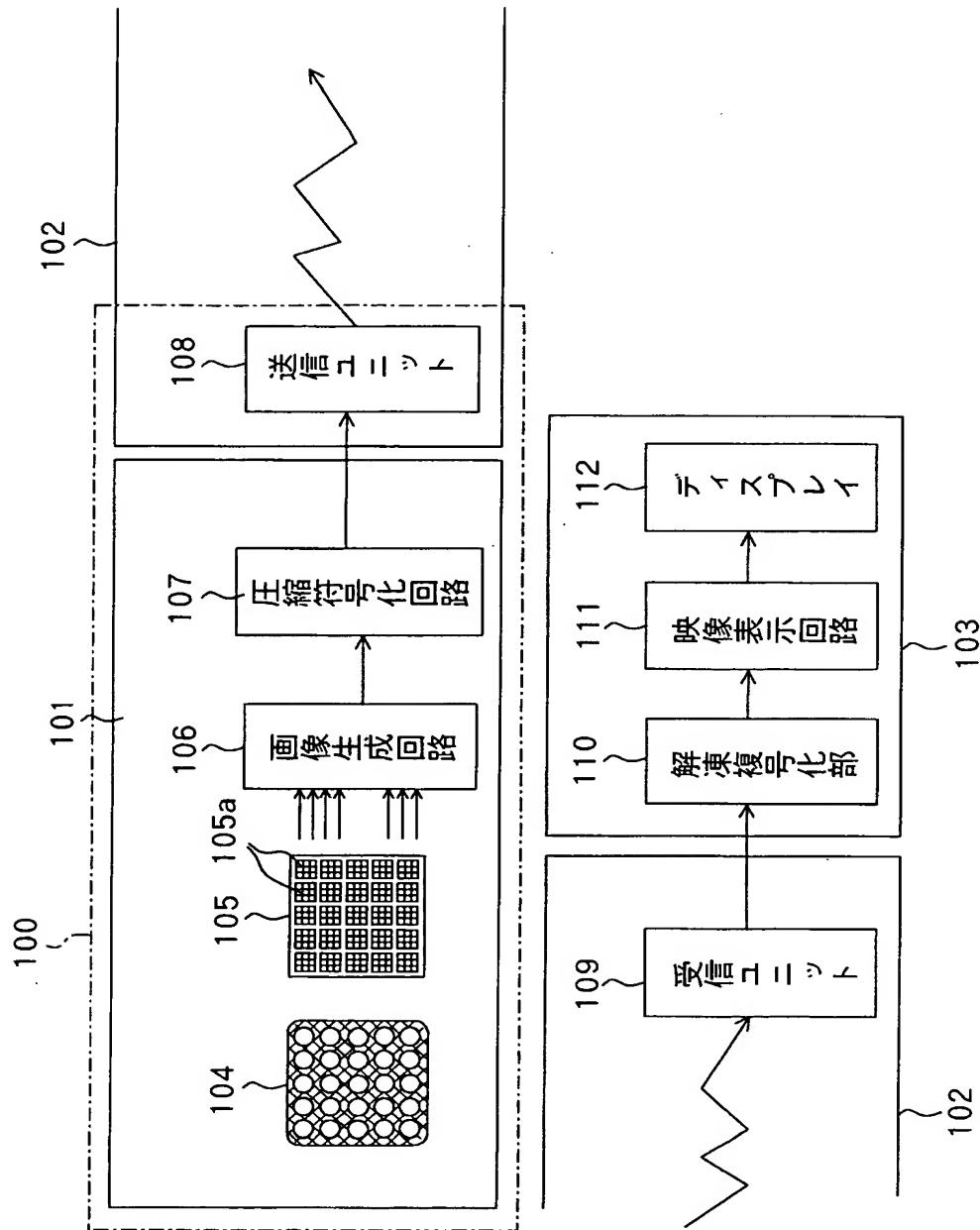
103 モニタ装置

- 104 複眼光学ユニット
- 105 撮像素子
- 108, 408 送信ユニット
- 109, 409 受信ユニット
- 110 解凍復号化回路
- 111 映像表示回路
- 201 レンズ
- 202 レンズ支持部材
- 301 光電変換素子
- 302 マイクロレンズ
- 601 保持部材
- 604 安全ピン
- 605 回路基板
- 606 アンテナ
- 607 電池
- 701 撮像制御回路
- 704 操作装置
- 901, 910 音声入出力ユニット
- 902, 912 マイクロフォン
- 903, 913 スピーカー

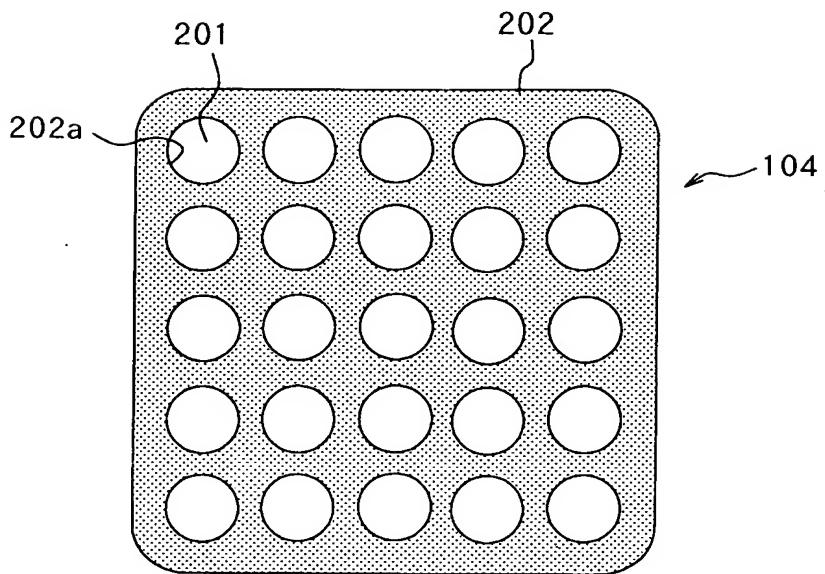
【書類名】

図面

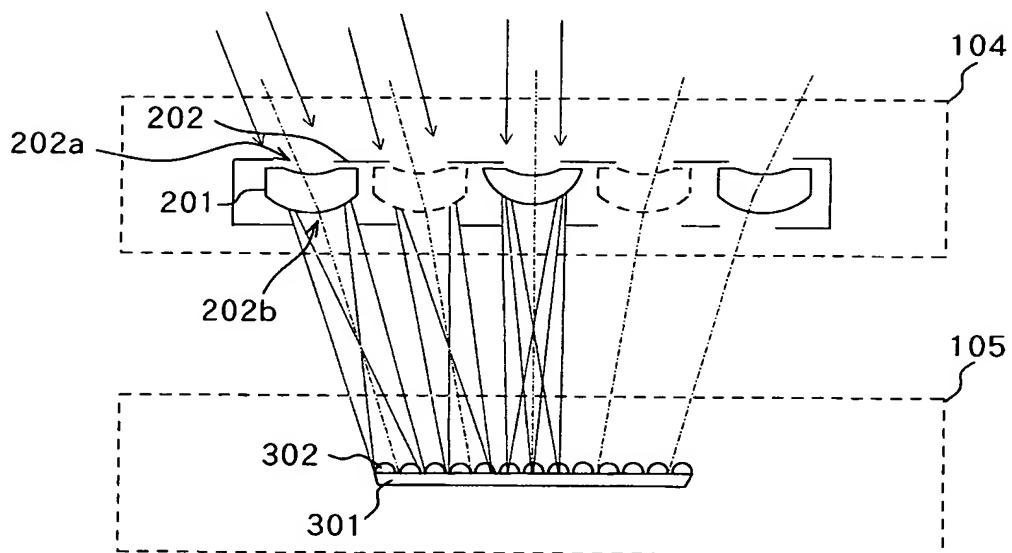
【図 1】



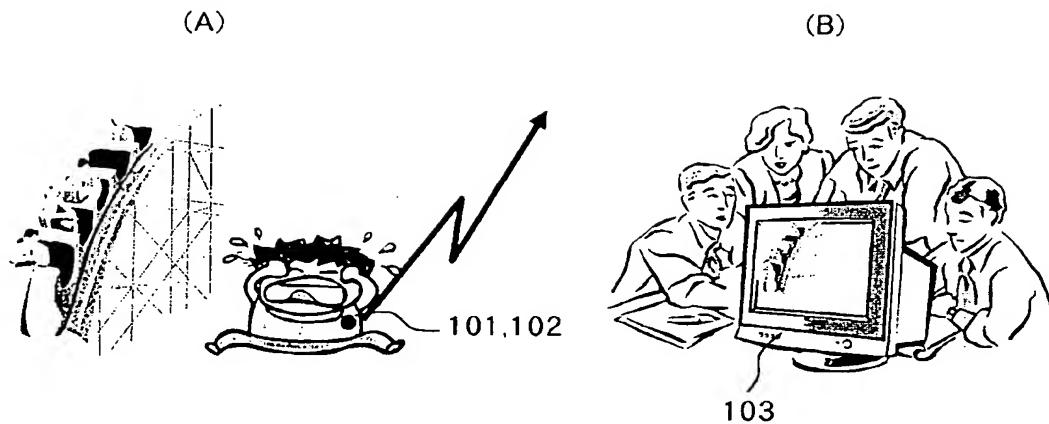
【図2】



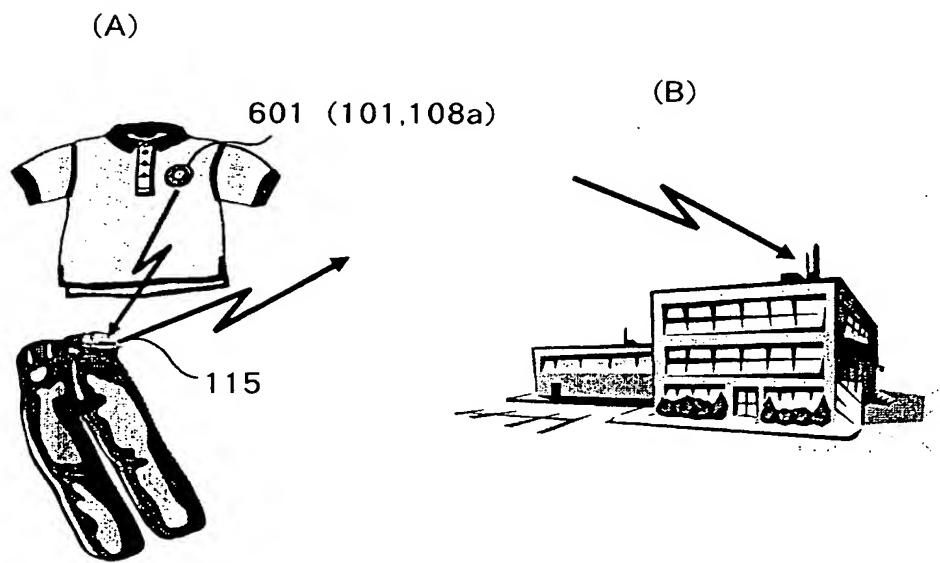
【図3】



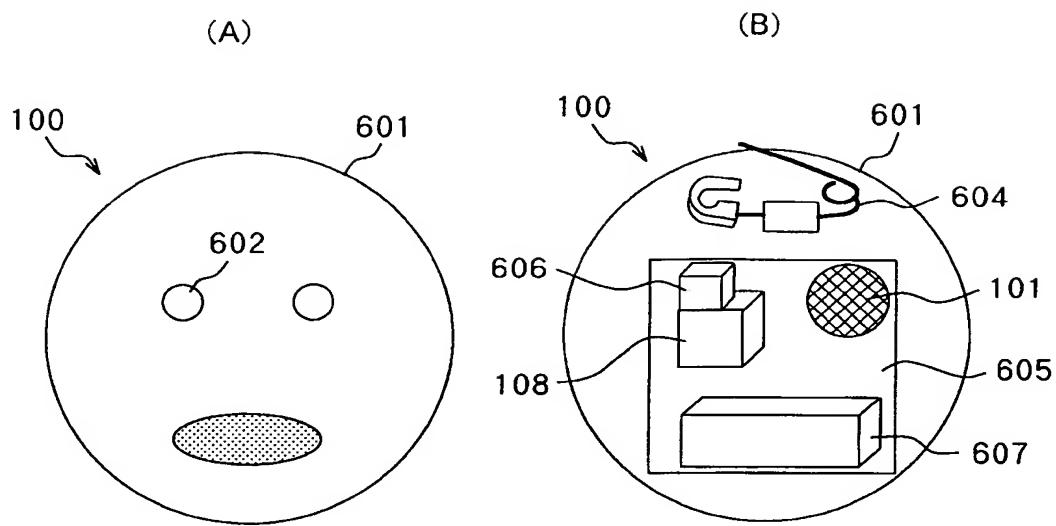
【図4】



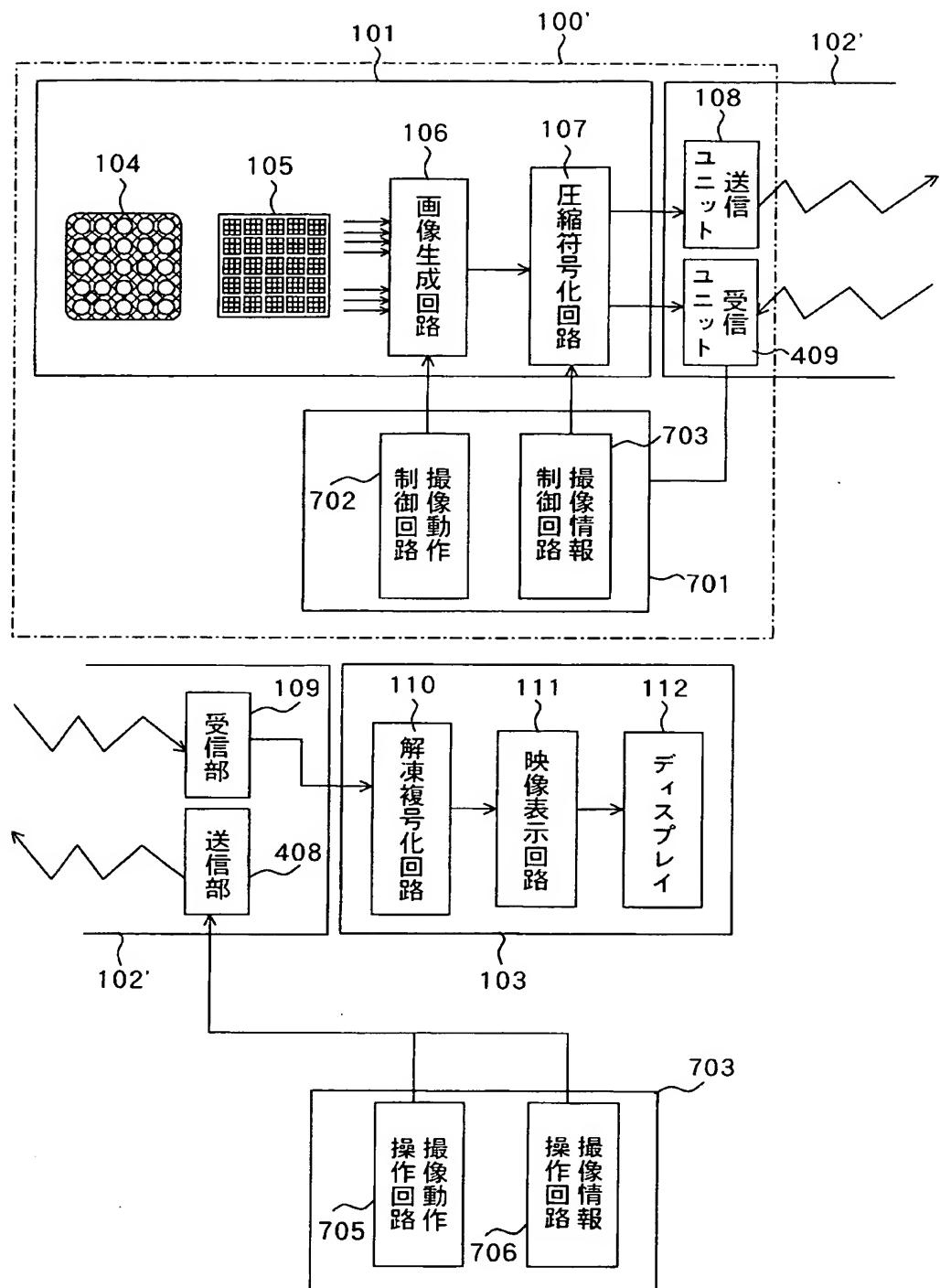
【図5】



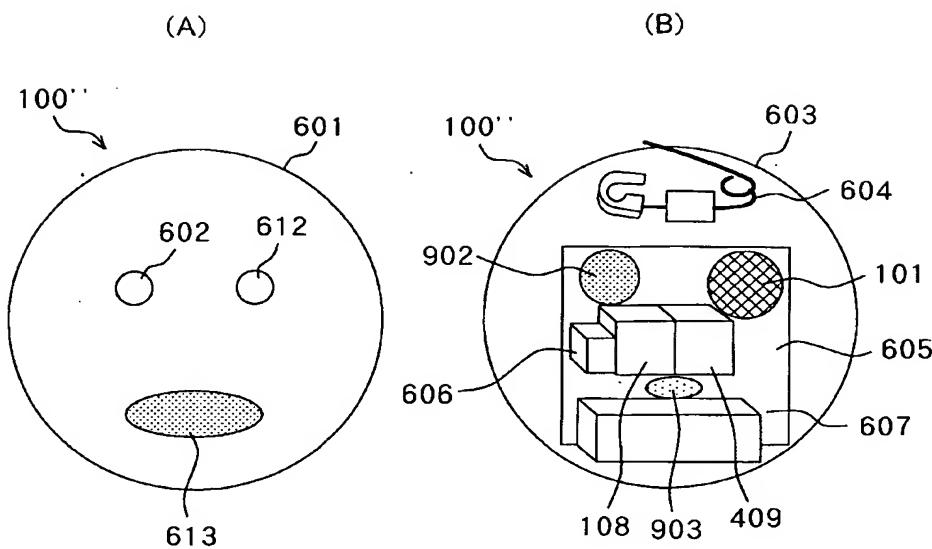
【図6】



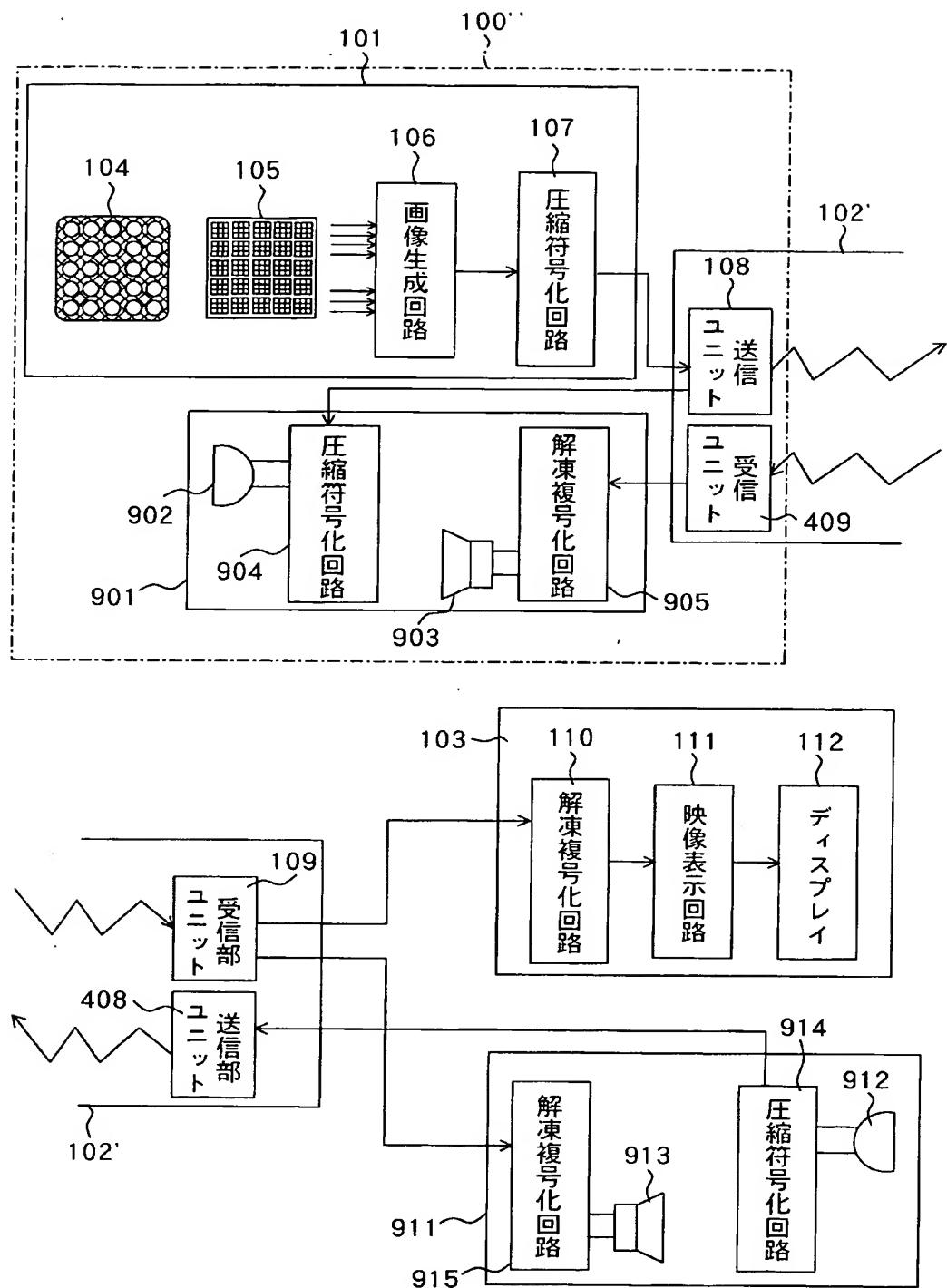
【図7】



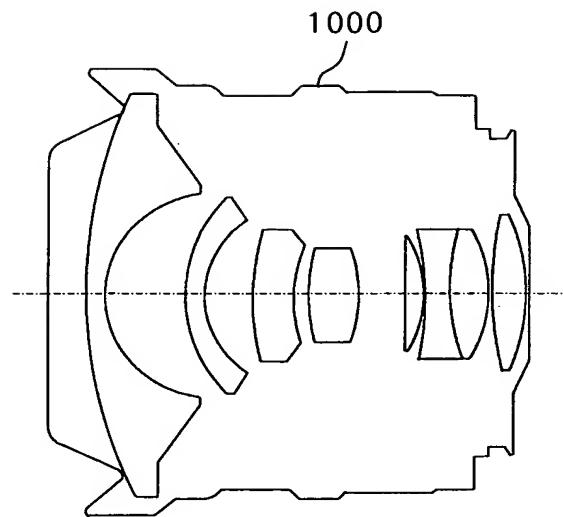
【図8】



【図9】



【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 G P S 等を利用して位置情報を得るだけでは、被救護者を取り巻く状況を知ることができない。

【解決手段】 結像作用を有する光学素子 104 と、光学素子により形成された被写体像を撮像する撮像素子 105 と、撮像素子により撮像された画像の情報を送信する送信ユニット 108 と、これら光学素子、撮像素子および送信ユニットを保持し、使用者に装着可能な保持部材とを有する撮像装置 100 を提供する。

【選択図】 図 1

特願 2002-366357

出願人履歴情報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
氏 名 キヤノン株式会社